

平成24年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成24年1月10日

礼文町長 小野 徹

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成 24 年の新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しい中、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、日ごろから町政の推進にあたり大変温かいご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、本日は、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきましたが、本日受賞された皆様方は、永年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって郷土礼文町の発展のため献身的にその職務に精励され、地方自治や住民自治の進展、納税の促進、また、地域を災害や火災から守り、住民の福祉の向上に尽力されるなど「ふるさと礼文町の発展を願い、子や孫のために大きな夢の種をまかれてこられた」皆様でございます。多大なご功績を賜りました功労者の皆様に心より深甚なる敬意と感謝を申し上げます。次第でございます。

どうぞ、今後も、礼文町発展のため、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

さて、今年には 2012 年、辰年であります。今年の干支は「壬辰（みずのえたつ、じんしん）」と言いまして、元々は「草木の形が整った状態のこと」を云うようではありますが、

「これから新しいもの、新しい事が生まれてくる準備が整った状態」を表しているそうであります。

昨年の「卯」年は、「草木が地面を覆う様子」を意味し、草木があふれて地面を覆う中に、今年は草木がきちんと形を整え、新しいものが生まれる。そんな繋がりがああるわけです。

辰年は、上昇気流によって天高く昇る、勢いのある元気な年にしたい、大きな飛躍の年にしたいと思います。

さて、昨年は、「東日本大震災」や台風被害など大規模な災害が後を絶たず、特に、3月11日に発生した「東日本大震災」では、三陸沖を震源とする観測史上最大のマグニチュード9の強い地震と、これによる津波によって、多くの尊い命が犠牲となり、岩手、宮城、福島の前北3県沿岸は壊滅的な被害を受けました。

わが国未曾有の大災害となったところであり、周りを海に囲まれた本町においても、これらの津波災害は他人事ではありません。人と人との「絆」を大事にすることが求められていると思っております。

皆さんが安全に避難できるよう、現在、各自治会長さんと相談させていただいて、避難路を標高20m以上の高台に移す見直すなどの作業を進めておりますし、新しい等高線マップを作成して全世帯にお届けする準備もしておりますので、今少し時間をいただきたいと思っております。

一方、明るい話題もありました。サッカー女子ワールドカップドイツ大会において世界一の栄冠をもたらした「なでしこジャパン」の最後まであきらめない試合スタイルとチームワークは、私たちに大きな感動と希望、そして自信を与えてくれました。

また、サッカーJ2においても、コンサドーレが苦しい戦いでしたが、道民サポーターの声援に支えられ最終戦に勝利して、見事にJ1に昇格、復帰を果たしました。

このように私たちは、昨年一年間、いろいろな出来事を通して、苦しい時こそ最後まであきらめずにやり遂げることの大切さ、また、苦しい時こそ「人」と「人」とのつながり、「人」と地域とのつながりがいかに大事であるかと云うことを学びました。まさしく、地域には「絆」があり、人、家族、仲間、地域が太い「絆」で結ばれていることを確認できた一年ではなかったかと感じております。

そして、それは、礼文島の子供たちが「保育所から小・中・高連携」の取組の中で「ふるさとに学ぶ礼文学」や「礼文検定」に一生懸命取組まれている姿と重なり、私たちはたくさんの元気をいただきました。

修学旅行での「礼文町観光大使」の活動は、ふるさとを愛する気持ちの大切さ、また、「震災支援プロジェクト」では助け合う気持ちの大切さを学びました。

「礼文学発表会」や昨年初めて行われた小中学生による大合唱などでの堂々とした立派な発表を見ますと、ふるさとのことを学びながら「豊かな心」と「確かな学力」をめざす素晴らしい取組みが、ますます進化していることを嬉しく思っています。更に、礼文高校生の全道書道展における高校文化連盟賞の受賞、二年連続で「税に関する作文」の札幌国税長賞受賞、また、放送部の全道大会出場等々多くの活躍がありました。

中学校においても、香深中学校と船泊中学校の卓球部の全道大会出場と船泊中学校の「わっかないソーラン祭り」での見事な活躍がありました。

また、香深中学校では少年の主張全道大会に三年連続での出場と野球部の離島甲子園野球大会。

そして、文化祭やはちまる交流会などでは全校の小中高生が素晴らしい頑張りを見せてくれました。

これもひとえに、教育関係者各位の熱心な取組の賜物であり、心から厚く御礼を申し上げる次第であります。

昨年の暮れには、待望の船泊保育所が完成し、子どもたちがのびのびと遊び・学べるよう安心・安全な保育環境ができあがりました。今後、子供たちの健やかな成長のために大きな役割を担うものと期待をしているところであります。また、「保育所から小・中・高連携」の中心となる礼文高校の魅力づくりを進め、地域づくりを担う若者を育てる中心となる礼文高校の充実強化を図り、魅力ある高校づくりを進めてまいります。

私は、これからも礼文島の教育連携が、将来を担う子供たちの健やかな成長のためにますます大きな力となりますよう、皆様のお力添いを心より、お願い申し上げる次第であります。

さて、本町の産業に目を向けますと、昨年の水産の水揚げは、平成21年、22年に比べますと、ゆっくりとした回復に向かっており、金額では、22年の29億3千5百万円を上回り、3年ぶりに30億円に達する水揚げの状況であります。

しかし、年々漁業者の高齢化が進んでいる中で、漁業者の所得の向上にはまだまだ不安定要素が多い現状にありますので、磯根資源の増大対策とつくり育てる漁業、価格安定のための付加価値向上対策事業などを推進し、尚一層の漁業経営の近代化と生産性の安定を図ってまいります。

さらに、次代を担う若手漁業者の育成が必要と思います。現在行われている「漁師道」をさらに拡充させるとともに、農業における「新規就農者支援制度」と同じように、新たに漁業に就業しようとする若者に対し、3年から5年程度は経営が安定するまでの期間として、これを支援する方策が必要と思いますので、これら制度の創設を国に要請しながら、若者が安心して漁業に従事できる環境づくりに努めてまいります。

一方、観光につきましては、団体から個人へと観光形態が変化している中、震災の影響や厳しい経済情勢もあって、残念ながら対前年比11%減の13万7千人と9年連続の減少となりました。特に、ここ数年は強い向かい風に直面しており、こうした厳しい現状を乗り越えるため、礼文島の恵まれた自然環境を保護活用し、積極的に情報を発信するとともに、観光エージェントや海外へのプロモーション活動、レブンアツモリソウの開花調整、「船上から眺める礼文島西海岸クルーズ」などの新しい観光資源の開発と、稚内利尻北宗谷地域と連携した「観光集客キャンペーン」などを展開してまいりました。

これに加えて、今は「21世紀型観光」と言われるように「団体型から個人型へ」「観光地めぐりから地域の暮らしを楽しむ滞在型観光」へと様変わりしています。

これからは礼文島の歴史や伝統文化、遺跡、食べもの、自然景観や高山植物、温泉と云った地域資源と地域の暮らしに根ざした礼文島固有の魅力を大事に活用した観光の振興を図ってまいります。

特に、生物多様性保全の取り組みは「礼文島いきものつながり」として、礼文島の大切な自然や希少な高山植物をこれからも私たちが利用していくための基本となる大事なものであり、ひとりでも多くの町民みなさんに行動していただきたいことをまとめ上げることとしていますので、ご協力をいただきたいと思います。

また、昨年クランクインした東映60周年記念映画「北のカナリアたち」も今撮影が進められています。阪本監督も「礼文の皆さんも、映画に参加していると思ってほしい」とおっしゃっています。吉永小百合さんをはじめ多くの映画スターの方々と町民みなさんの交流を通して、映画撮影が成功することを願っているところでございます。撮影終了後の校舎等の映画セットにつきましては新たな観光資源として活用し、観光の振興を図って、本町経済の活性化に努めてまいります。

礼文町の基幹産業はいうまでもなく「漁業」と「観光」であり、本町の活力を高める基盤となるものであります。

私は、島の元気はみなさんが生き生きと元気に働くことであり、そのために行政がお手伝いをしていくことだと考えてきました。その考えに変わりはありませんが、島の人口が3千人を割り込んだ今、それを民間にだけ求めることはできないと考え、早々に「産業創出と人口増加」に取り組むべく昨年10月に『礼文島の新たな挑戦プロジェクト』を立ち上げました。新たな凍結技術の「CASシステム」を活用して礼文島の海産物に付加価値をつけ、雇用の場を確保し、経済基盤を強化して元気で活力に満ちたまちづくりを大きな目標に掲げ、現在、鋭意作業を進めているところです。新年度においては、議会の皆さんや町民皆さんとも協議する場をもってわが町の活性化策を取りまとめ、対策を進めてまいりますのでご理解をいただきたいと思います。



最後になりましたが、新年度の国の予算は 90 兆 3339 億円と 6 年ぶりに前年度を下回ることとなりましたが、税収は 42 兆円しか見込めないことから、不足財源は新規国債発行額を 44 兆円としたため、国の「公債依存度」は 49% と過去最悪となり、国と地方を合わせた長期債務残高も 937 兆円と国内総生産の約 2 倍となって、財政の硬直化が進む深刻な状況になっております。

おかげさまで、礼文町の「実質公債費比率」は、危険水域と言われてきた 25 ポイントを大きく下回り、平成 21 年度決算では 17.0 ポイント、平成 22 年度決算においては 12.9 ポイントと大きく改善され、今年度決算見込みでもさらに改善に向かっており、着実に健全化が進められております。

これもひとえに、町民皆様の温かいご理解とご協力によるものと心から御礼を申し上げます。

しかし、安全水域を維持していくためには、まだまだ多くの課題を解決しなければなりません。今後も、町民皆様のお力添いをいただきながら、財政の健全化に努めてまいりたいと考えているところでございます。尚一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、先ほども少しふれましたが、平成 24 年の礼文島は、東映 60 周年記念映画「北のカナリアたち」の礼文島ロケで始まりました。

主演の「吉永小百合さん」をはじめ「宮崎あおいさん」や「小池栄子さん」「森山未來さん」「松田龍平さん」などオールキャストがここ礼文島に勢揃いするという新春に相応しい華やかで明るい話題にあふれています。

また、北海道が施工する香深と西海岸の元地をつなぐ1.5Kmの「新桃岩トンネル」の掘削工事も、新年度から本格的に始まることとなる明るい話題であります。

私は、今年も、元気な礼文町をめざして、職員ともども一生懸命努力してまいりますので、尚一層のご理解ご支援を賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。

結びに、皆様には辰年の今年が竜のように天高く昇るがごとく勢いのある「竜驤麟振りょうじょうりんしん(りょうじょう りんしん)」の一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

“本年も、よろしく願いいたします”

“ご清聴ありがとうございました。”